



谷口与鹿の獅子彫刻下絵

高山祭の展示室では、飛騨の文化の結晶である屋台について、その歴史を物語る資料を中心に展示しています。

春の山王祭、秋の八幡祭の起源は、ともに江戸時代(17世紀半ば)の金森時代ごろからといわれています。屋台については享保3年(1718)の八幡祭に「高砂」「猩々」「浮嶋

大夫夫婦」「湯ノ花」と呼ばれる屋台が曳かれたという記録があります。これが現在わかっている高山祭屋台の最も古い記録で、この時、八幡祭に屋台がすでにあつたことがわかります(柚原三省著「日記(高山八幡祭礼行列)」、展示中)。屋台は組内の皆さんによって守られ、互いに競い合つて



まち博へ行こう

飛騨高山
まちの博物館

城下町高山の新しい交流拠点「飛騨高山まちの博物館」

その収蔵品を紐解くと、現在に生きるわたしたちと過去の先人たちとの、刻を超えた出会いが待っています。

広報たかやまでは、収蔵品とそれにまつわるエピソードを紹介していきます。

人の魅力、まちの魅力、高山の魅力

第一章 高山祭

今の形へと姿を変えてきました。文化年間(1804-18)に描かれたと推定される「高山祭絵巻」(展示中)には、200年前の山王祭の屋台の姿が描かれており、4段構成で屋根は唐破風、彫刻がないなど、当時の屋台の姿がわかります。

その後、文政末から天保年間ごろ、屋台に彫刻がつけられるようになると名を馳せ

のが名工谷口与鹿です。与鹿の彫刻下絵からは、生き生きとした彫刻の生まれる過程が目に見えます(「谷口与鹿獅子下絵」等、展示中)。

その他、昔のからくり人形や、今はなくなつてしまった屋台の祭神など、展示物は高山祭の歴史を知る上で貴重なものばかりです。高山祭の長い歴史を実感してください。

開館記念特別展のご案内 高山祭新発見！祭りにかける技と心



春と秋に開催される高山祭。その屋台蔵に収蔵されている貴重な資料を高山屋台保存会の協力のもと展示するとともに、当館所蔵の祭関係資料を展示中です。高山祭に関わつた多くの人々の思いや技をご覧ください。

●期日 6月5日(日)まで

●臨時休館のお知らせ

6月13日(月)午後7時~14日(火)午後9時
※館内防虫作業のため

利用のご案内

- ◆開館時間 展示室 午前9時~午後7時/研修室 午前9時~午後9時/庭園 午前7時~午後9時
 - ◆休館日 無休(臨時休館有) ◆観覧料 無料
 - ◆駐車場 空町駐車場 (市民の方は2時間無料です※証明書要)
- 〒506-0844 高山市上一之町75 ☎32-1205

